

富山高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	環日本海文化論		
科目基礎情報							
科目番号	0044		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	制御情報システム工学専攻		対象学年	専2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	高階秀爾『西洋美術史』、中澤敦夫・宮崎衣澄『暮らしの中のロシア・アイコン』						
担当教員	宮崎 衣澄						
到達目標							
西洋美術史におけるアイコン、ロシア文化におけるアイコンについて学習することにより、ロシア宗教・文化事情に関する理解を深める。また、日本への正教会伝道について学び、ロシアと日本の文化交流史に関する理解を深める。 J A B E E の評価基準を満たすには、60点以上必要である。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	西洋美術史の流れとアイコンについて理解できている		西洋美術史の流れとアイコンについて、おおよそ理解できている		西洋美術史の流れとアイコンについて、理解できていない		
評価項目2	ロシア文化におけるアイコンについて理解できている		ロシア文化におけるアイコンについて大よそ理解できている		ロシア文化におけるアイコンについて理解できていない		
評価項目3	明治期の日露交流史について理解できている		明治期の日露交流史について大よそ理解できている		明治期の日露交流史について理解できていない		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	環日本海地域のうち、特にロシアに注目し、ロシアの宗教とその表象であるアイコンに焦点をあてる。アイコンを美術史の枠組みで捉えるだけでなく、ロシアの歴史・文化面から分析することにより、ロシアの宗教・文化事情に対する理解を深めることを目的とする。 ロシア正教は明治期より日本で宣教活動を行っていることを踏まえ、日本における正教会についても触れ、日露文化交流史について学ぶ。						
授業の進め方・方法	講義および発表						
注意点	単位認定には、60点以上の評定が必要です。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	イントロダクション 美術史におけるアイコン		美術史におけるアイコンの歴史的発展について学習する		
		2週	美術史概論①		西洋美術史の流れを理解する		
		3週	美術史概論②		西洋美術史の流れを理解する		
		4週	美術史概論③		西洋美術史の流れを理解する		
		5週	美術史概論④		西洋美術史の流れを理解する		
		6週	美術史概論⑤		西洋美術史の流れを理解する		
		7週	美術館実習事前学習		美術館実習事前学習。美術館所蔵作品について学習する。		
		8週	美術館実習事前学習		富山美術館にて実地研修を行い、作品についての理解を深める		
	4thQ	9週	実習のまとめと報告会		美術館実習で学習したことをまとめ、発表会の準備を行う		
		10週	ロシアとアイコン①		ロシア史における宗教・アイコンの役割と歴史について概観する		
		11週	ロシアとアイコン②		ロシア史における宗教・アイコンの役割と歴史について概観する		
		12週	日本の正教会		明治期にロシアから日本にもたらされた日本の正教会とその発展について学ぶ		
		13週	美術館実習事前学習		西田美術館において実地研修を行い、作品についての理解を深める		
		14週	実習のまとめと報告準備		美術館実習で学習したことをまとめ、発表会の準備を行う学習したことをまとめる		
		15週	報告会		美術館実習をうけて、ロシア・アイコンの作品をとりあげて発表を行う		
		16週	期末試験		学習内容が理解できているか確認する		
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	0	60	0	0	0	40	100
基礎的能力	0	20	0	0	0	20	40
専門的能力	0	20	0	0	0	10	30
分野横断的能力	0	20	0	0	0	10	30